

**テレビ番組「芸能人格付けチェック」になぞれば
「映す価値なし」(0.0%)にされた配置用医薬品生産額
厚生労働省・令和元年度薬事工業生産動態統計に見る
置き去りにされた置き薬**

発行：日本置き薬協会 事務局

平成30年度まで（百万円）

年	生産	医療用医薬品	その他の医薬品	一般用医薬品	配置用医薬品	伸び率	構成比
28	6,623,860	5,871,373	752,487	735,210	17,276	-8.9%	0.3%
29	6,721,317	6,007,419	713,898	699,626	14,272	-17.4%	0.2%
30	6,907,722	6,172,570	735,152	720,928	14,224	-0.3%	0.2%

* 「その他の医薬品」は、「一般用医薬品」と「配置用医薬品」の合計額

* 「配置用医薬品」は、一般用・配置用家庭薬の（兼用）の医薬品の額（主に富山県、奈良県で生産）

令和元年度より（百万円）

年	生産	医療用医薬品	要指導医薬品・一般用医薬品	うち配置用家庭薬	伸率	構成比
28	6,623,860	5,871,373	752,487	17,276	-8.9%	0.3%
29	6,721,317	6,007,419	713,898	14,272	-17.4%	0.2%
30	6,907,722	6,172,570	735,152	14,224	-0.3%	0.2%
元	9,485,998	8,662,822	823,166	2,725	-80.8%	0.0%

(0.028%)

厚生労働省医政局経済課は、昨年12月24日「令和元年度薬事工業統計生産動態統計」を公表した。「配置用医薬品」については令和元年からの集計区分の見直しによる医薬品の用途区分で「要指導医薬品・一般用医薬品」に含まれることになった。また「配置用家庭薬」は、「配置業者向け」のみにメーカーが販売供給する医薬品（今調査の生産額は27億2,500万円）とした。これらにより配置薬業界が縮小傾向であるにせよ、前年よりマイナス80.8%、114億円も急減するという、実態を現さない生産額の表示となった。配置用医薬品の総生産金額を把握することは出来なくなったわけで、「映す価値なし」と言われているのではないかと、自虐的にならざるを得ない状況だ。

ちなみに、令和元年度より本調査はメーカーなどの電算機入力により集計化され発表がなされている。製品の生産額、数量などは、予めメーカーなどが厚生労働省経済課の指示に則り付与された「医薬品銘柄コード」を伴い入力される。

製品銘柄コード（一般用医薬品コードまた経済課コード）には「用途区分」があり、「個々の製品の該当する用途区分（アルファベット1文字）」を選択するとし、A一般用医薬品・要指導医薬品、B配置用家庭薬、C医療用医薬品、D一般用・配置用家庭薬（兼用）、E医療用・一般用（兼用）が記されている。

前述のように、配置薬を生産する多くのメーカーは、製品コードに「D」（一般用・配置家庭薬（兼用））を用い製品銘柄コードにしている。それが集計の際、「D」が「A」（一般用医薬品・要指導医薬品）に編入され、「B」（配置用家庭薬）だけとなり大幅な減額となってしまったのではなかろうか。「B」と「D」を合計すれば従来同様の金額になると思われる。

適正な規模を表示するためにも、厚生労働省に早急な改善が望まれる。

本件に関するお問合せ先 **日本置き薬協会 事務局**

〒332-0034 埼玉県川口市並木2-30-6 内外救急薬品内
Tel 080-5514-7511（有馬） fax 048-251-9657